

## 第1回 松島八代航路あり方検討会 議事要旨

- 1 日時 平成25年3月25日 13:30~14:40
- 2 場所 上天草市役所大矢野庁舎 2階庁議室
- 3 出席者
  - (1) 検討委員（名簿順、敬称略）  
溝上委員、瀬崎委員、小山委員、千原委員、宮本委員
  - (2) オブザーバー  
熊本運輸支局 池田首席運輸企画専門官  
熊本県交通政策課 猪原主幹（代理）  
八代市企画戦略部 福永次長（代理）  
上天草市総務企画部 杉田部長
  - (3) 共同事務局  
上天草市総務企画部企画政策課  
八代市企画戦略部企画政策課
- 4 次第
  - (1) 開会
  - (2) 議案第1号 「松島・八代航路あり方検討会 規約（案）」等について
  - (3) 議案第2号 役員の選任について
  - (4) 議案第3号 今後の会議の進め方について
  - (5) その他

※配布資料

  - 資料1-1 松島・八代航路あり方検討会規約（案）
  - 資料1-2 今後の会議の進め方について
  - 参考資料1-1 松島・八代航路あり方検討会

## 5 議事概要

- (1) 開会  
会長選任までの間、事務局が司会進行。
- (2) 上天草市総務企画部長挨拶  
「松島・八代航路」は、天草フェリーライン（有）の運休により、今月末で航路休止となる。  
本航路は、住民及び観光客等の海上交通手段として、長きにわたり運航されてきたが、天草五橋開通や道路の整備等により、市民の交通手段の多

様化が進み、フェリー利用のニーズが低下したこと、それに加え、近年、燃料費が高騰したこと。これらの要因で、事業者にとって経営が厳しくなったことが、本航路の休止の要因と考えられる。

この検討会を通じて、本航路を運用面等の観点からシミュレートし、本航路の必要性や利用客のニーズ、適正な運航形態等の本航路のあり方を御検討いただきたいと考える。

本検討会には、交通政策・交通計画等のご知見や、航路事業の実務のご知見をお持ちの方々に加え、観光・商工団体、両市の住民代表を委員として、その他に運輸・交通行政分野から国・県にオブザーバーとして参加いただいている。各位のご知見を賜り、本航路のあり方について検討していただきたい。

### (3)「松島・八代航路あり方検討会 規約（案）」について

(事務局)

- ・資料１－１「松島・八代航路あり方検討会規約（案）」及び参考資料１－１「松島八代航路あり方検討会」により、本検討会の役割を説明するとともに、規約（案）を説明した。
- ・規約案は、満場一致で承認された。

### (4) 役員を選任について

- ・委員から、会長に熊本大学自然科学研究科教授 溝上委員が、副会長に(株)シークルーズ常務取締役 瀬崎委員が推薦され、満場一致で推薦どおり選任された。
- ・続いて、会長、副会長、委員及びオブザーバーから自己紹介があった。

### (5)「今後の会議の進め方」について

(事務局)

- ・資料１－２「今後の会議の進め方」により、今後のスケジュール及び会議の進め方に関する説明を行った。

(会長)

- ・資料１－２「今後の会議の進め方」の議題について、意見・質問の確認

(各委員)

異議なし。

(会長)

今後は、原案に基づき会合を進めたい。

(6) その他

会長の発案で、フリートーキングを実施。

(委員A)

現状、国及び県・市等からの補助金を前提にした航路モデルの策定はなかなか難しいものと思われる。この状況を踏まえ、ニーズがどれくらいあるのか、どのような運航形態があるのか等をしっかりと研究しながらやっていくことが必要。公共交通と捉えると一概に収支のプラス・マイナスだけで議論できないところではあるが、前述のとおり、国・県・市の厳しい財政状況を考えると、支援は難しいので、それなりに収支を確保していかないと航路の維持・安定的な事業にはつながらない。この部分をこの検討会でしっかりと検討できればよい。

(委員B)

利用者ニーズは重要。本検討会でしっかり調べる必要がある。

(委員C)

上天草市に来るための交通手段は多くあることにこしたことはない。本航路が無くなることで、何らかの影響が出ることを懸念する。現在、松島から八代港まではフェリーで約1時間、陸路で約1時間半の状況である。八代以南のエリアから上天草市に来る場合、本航路の休止で、所要時間が増加する。八代以南からの移動については、本航路はあった方がよい状況である。

(委員D)

資料より、利用客が減っていることが分かった。利用客がどれだけ増えれば、赤字にならず、航路事業が成り立つのか。赤字になった場合、県・市がどこまで補助を出せるのか、民間だけでは無理だと思うので、助成は必要だと思う。また、検討に当たっては、船の形態も考慮が必要。これらのことを踏まえて航路事業の可否の検討が必要。

(会長)

貴団体としては、この航路はどういう位置付けなのか。

(委員D)

本市から買い物などで使うこともあるだろうし、対岸の八代市側から観光などで天草に来る際に利用する方もいらっしゃると思う。本航路があれば、当団体としてメリットはある。

(オブa)

国の補助制度というのは半島航路にはない。離島航路なら船が無いと生活が厳しいが、半島航路では直ちにそうとは言い切れない。熊本県には、現在国庫

補助を受けている離島航路はない。

当該航路は半島航路に該当するため、国からの補助は現状では厳しいが、補助制度で何かご相談があれば、本省や九州運輸局も交えて、何らかの検討は出来るのではないかと思われる。いずれにしても、上天草市や八代市の住民の方がどう思われるかが大事であり、そこを踏まえて検討して頂きたい。

(オブ b)

平成 21 年度以降、県内において複数の航路事業が廃止という状況が相次ぎ、離島航路や半島航路で、住民の足を確保することが喫緊の課題であった。そのため、昨年 6 月補正予算で県単独の補助制度を創設した。国の補助制度より一部要件を緩和し、市町村等が単独で航路維持のために補助を行っている航路について、県も一部支援する事業内容となっている。

ただし、本事業については、緊急的な措置であり、4 ヶ年度限定で考えている。先ほど、行政からの補助の話が出ていたが、財源にも限りがあり、将来的に続くとは限らない。

本検討会において、本航路における航路事業のモデルも含めて、あり方を検討していく主旨であると聞いているため、まずは、現状のニーズ等で収支のバランスがとれ、自己資金で事業を運営できるような手段があるのか、そのようなモデルはあるのかを検討してみてもどうか。

(オブ c)

本航路については、次の 2 点から考察できればと考えている。1 つは、地域住民の生活の保全という観点。この観点から本航路が果たす役割の検証が必要。もう 1 点は、地域振興の観点。

現在、八代市側は九州新幹線や九州縦貫自動車道、南九州西回りルート等がある。このように縦方向には交通網が発達しているが、地域振興のためには横方向も重要であると思う。そこで、航路も含めたところで、新規ルートの開拓も視野に入れつつ、地域振興の観点から検証が必要と思われる。このようなものを掘り下げていくことにより、自立的な経営の糸口が見えてくるのではないか。さまざまな観点での検証を念頭に置き、本航路における航路事業のモデル策定を目指していきたい。

(オブ d)

現状で航路事業を維持するには、多額の補助金投入が必要となる見込み。今回の検討会で、本航路事業を維持するためにはどれくらいの経費がかかるのか検証し、補助金なしでも成立するのか、補助を必要とする場合、どれだけ必要で、この助成に対し、住民の皆様がどれだけ助成額までなら理解して頂けるか、ということまで踏み込んで検証しなければならないのではないかと。

(7) 閉会

(事務局)

次回会合は5月頃を予定する。詳細は別途連絡する。

以上